

NPD

NIPPON PARKING
DEVELOPMENT

ε R á D ÓqOE

pŽ p	y'y TM
pŽ p	ñEy]%o
pŽ p	~Ðy ¾
xÈ *p	,ÝÉ b\$
*p	GÐy 1ì
*p	αby %oF

NPD

Business Report

H 8 H ›R&¼ £Ò èô y
R á D Ô TM R á D Ô

NPD 日本駐車場開発株式会社

¡ IRð M ù ~ d OE § g Š æ
f ~ N • E > à w ° , è j ø ý w ° ĩ ç Ä Ÿ ĩ
Tel: 03-3218-1904 y Fax: 03-3218-1901 y
E-mail: ir@n-p-d.co.jp http://www.n-p-d.co.jp y



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より当社の事業に御理解、御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、「ハッピートライアングル」という経営理念のもと、不稼働資産の有効活用と付加価値の高い駐車場をご提供することで、ステークホルダーの皆様方の満足を高められるよう真摯に取り組んでまいりました。

当第2四半期(中間期)におきましては、欧米や我が国の景気が急速に後退するという厳しい経済情勢を迎えましたが、私どもの事業基盤である都市部のビル附置駐車場および大規模商業施設におけるサービス向上や収益改善に関する需要は引き続き堅調に推移いたしました。またスキー場事業においても積極的な販促活動により来場者数が前年度を上回り増収の運びとなりました。

下期につきましてもこうした収益基盤を活用し、更なる駐車場サービスの革新に取り組み、株主の皆様のご期待に添えてまいり所存です。

今後とも一層の御支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 巽 一久

	平成21年1月期	平成20年1月期
売上高	3,842	3,538
営業利益	549	443
経常利益	501	1,102
四半期純利益	206	123

(百万円)

売上高・営業利益ともに過去最高を達成

■決算の概況

連結売上高は過去最高の3,842百万円(前年同期比8.6%増)となりました。駐車場事業においては、月極専用物件において安定的な売上高を確保したことに加え、駐車場サービス強化需要に応えた高付加価値型マネジメント契約を増加させたことにより増収となりました。スキー場事業におきましては、積雪量は平年を下回ったものの、積極的な販促活動やゲレンデ改善等による競争力強化により来場者数を伸ばすことができました。

また連結営業利益においても、駐車場の新規契約受注による売上高が増加したことに加え、固定費の増加を抑制し業務効

率の改善に取り組んだ結果、過去最高の549百万円(前年同期比23.8%増)を達成いたしました。

連結経常利益においては、前第2四半期に匿名組合出資金の配当益が812百万円発生したことに対し、当第2四半期では91百万円にとどまったことに加え、投資有価証券の売却を進めた結果501百万円(前年同期比54.6%減)となりました。

株式市場低迷の影響を受けた持ち合いの投資有価証券評価損117百万円等を計上したことにより、四半期純利益は206百万円(前年同期比67.9%増)となりました。

■セグメント別の状況

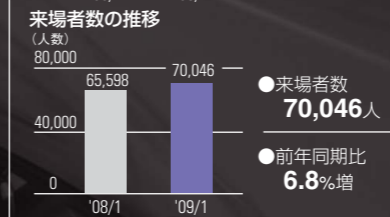
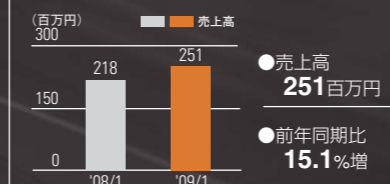
1 駐車場事業



駐車場事業では、駐車場オーナー、駐車場ユーザー、そして社会にとってメリットのあるソリューションを提供することが自らの使命であるという認識のもと、常に先進的な駐車場サービスの提供に取り組んでいます。

※IPO・IRコンサルティング事業については、当第1四半期連結会計期間より駐車場事業に含めて記載しています。

2 スキー場事業



スキー場事業では、過去に多額の投資により建設されたものの利用客が減少し、経営難に陥っているスキー場がある一方で、施設やサービスに満足できずに自然とスキー場から遠ざかる人がいるなど駐車場事業と同様にさまざまなギャップが存在しており、連結子会社である日本スキー場開発(株)がこれらのギャップを解消し、スキー場の再生を目指しています。

1 高付加価値型マネジメント物件I

「シャングリ・ラ ホテル 東京」でバレーパーキングを開始

2009年3月2日にJR東京駅前に高級ホテル「シャングリ・ラ ホテル 東京」がオープンいたしました。私どもは、この「シャングリ・ラ ホテル 東京」を訪れるお客様向けのバレーパーキングサービスを提供させていただいております。バレーパーキングとはお客様の車をエントランスでお預かりし、駐車場まで回送するサービスで、既にウェスティンホテル東京や銀座アルマーニタワーなどの高級ホテルやブティックで導入いただいているサービスです。これまでのバレーパーキ

ングの運営ノウハウを活かし、ホテルマンと同等のサービスレベルでバレーパーキングサービスをご提供いたします。今後もお客様にとって利便性が高く、気持ちよくご利用いただけるサービスをご提供することで、施設の第一印象と付加価値を高め、オーナー様にも喜んでいただける駐車場ソリューションをご提供して参ります。



東京PM部 梅田 旭

一流ホテルの玄関口を担う者として、洗練されたスマートなサービスを心がけています。お客様に少しでも気持ちよく過ごしていただくため、細やかなところまでサービスが行き届くようスタッフの教育にも力をいれています。

2 高付加価値型マネジメント物件II

大型ショッピングモール駐車場「オーロラパーキング」の運営を開始

2008年11月1日より、横浜市東戸塚駅東口にある大型ショッピングモール東戸塚オーロラシティの駐車場「オーロラパーキング」の駐車場運営を開始いたしました。東戸塚オーロラシティは、西武百貨店東戸塚店とダイエー東戸塚店、その他専門店が並ぶオーロラモールの3施設から構成される大型ショッピングモールで、駐車場の総台数1,620台と当社運営物件では過去最大規模の駐車場です。当社運営開始前はそれぞれの施設ごとに運営されていた駐車場を当社コンサルティングにより一体運営し、混雑時に空いている車室にお客様のお車を誘導するなど、



東京営業部 コンサルティンググループ グループリーダー 井野 雅久

収益改善や安全性の向上、サービス強化の観点から、施設ごとに適切なコンサルティングをするため、駐車場の現状調査を徹底しています。オーナー、ユーザーだけでなく地域社会にも喜ばれる駐車場を目指し、最適な駐車場ソリューションをご提供していきます。



適切なオペレーションをご提供することで、駐車場の利用効率を改善させ、利便性と快適性の向上に努めています。さらに駅前という立地を活かし、パークアンドライド利用のための通勤定期料金を導入するなど、施設来場者以外の駐車場利用を促進することで、駐車場を最大限に有効活用し、地域社会にも役立つ駐車場づくりを進めています。

3 駐車場車室活用の新たなソリューション

四輪車用機械式駐車を活用したバイク向けの月極駐車場運営を開始

時間貸し駐車を運営している東京「恵比寿プライムスクエア」にて、新たにバイク向けの月極駐車場事業を開始いたしました。「ecoloca」を開始致しております。今後この新しい試みは、四輪自動車用の立体駐車場パレットにバイクを2台置くための専用機器を取り付け、自動車1台分の車室をバイク2台で活用するものです。屋内立体駐車場の利点を活かし、車輛の盗難や雨風による損傷の危惧を防げるバイク駐車場として、今後高級バイク所有者を対象に都市部を中心に各所で展開していきます。機械式駐車場の新しい利用方法をユーザーの視点から検討するなか、昨年におい



経営企画室 副室長 小海 信哉

機械式駐車場の更なる有効活用として、カーシェアリングとバイク駐車を開始いたしました。今後もマーケットの変化にあわせ、駐車場に関わる新しいソリューションを開発し、提供し続けていきます。



震度7の地震でもバイクが転倒しないよう安全性が確認された専用機器を設置しています。

■要約連結貸借対照表

科 目(単位:百万円)	当第2四半期 連結会計期間末 平成21年1月31日	前連結会計年度末 平成20年7月31日
(資産の部)		
流動資産	2,310	2,599
固定資産	4,431	4,625
有形固定資産	934	847
無形固定資産	90	93
投資その他資産	3,406	3,685
資産合計	6,741	7,225
(負債の部)		
流動負債	2,823	3,032
固定負債	2,721	2,370
負債合計	5,545	5,402
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	568	548
資本剰余金	416	397
利益剰余金	852	1,325
自己株式	△353	△353
評価・差額金等	△300	△101
新株予約権	11	7
純資産合計	1,195	1,822
負債純資産合計	6,741	7,225

■要約連結損益計算書

科 目(単位:百万円)	当第2四半期 連結累計期間 平成20年8月1日から 平成21年1月31日まで
売上高	3,842
売上原価	2,369
売上総利益	1,473
販売費及び一般管理費	923
営業利益	549
営業外収益	116
営業外費用	164
経常利益	501
特別利益	0
特別損失	118
税金等調整前四半期純利益	383
法人税、住民税及び事業税	3
法人税等調整額	173
四半期純利益	206

■要約連結キャッシュ・フロー計算書

科 目(単位:百万円)	当第2四半期 連結累計期間 平成20年8月1日から 平成21年1月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	162
投資活動によるキャッシュ・フロー	259
財務活動によるキャッシュ・フロー	△208
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	213
現金及び現金同等物の期首残高	1,518
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,731

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
期末配当金受領株主確定日	7月31日
定時株主総会	毎年10月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 ジャスダック証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.n-p-d.co.jp/ir/announcement.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

○株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-244-479 (東京) 0120-684-479 (大阪)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。